

異文化に対する子どもたちの関心 ——小4「エスキモーの暮らし」の実践を通して——

安 藤 正 紀 *

I はじめに

昭和60年度の日本地理教育学会において、岩本広美・斎藤毅らによって、小学校社会科に世界地誌学習を導入すべきであるという主張がなされた¹⁾。

岩本は、「世界地誌に関する学習は、小学校の低・中学年の段階から実施した方が効果的なのではないか。」という、自らの仮説を支持する意見を6項目に分け、文献整理を行った²⁾。

斎藤は、地誌教育は、子どもの発達に伴って段階的に発展すべきであるとし、3段階に分けて提示した³⁾。

筆者は、昭和59年度3学期に、安城市立二本木小学校の4年生に対して、「エスキモーの暮らし」の授業実践を行った。そこで、異文化に対する子どもたちの関心がどの程度であり、授業実践によってどう変容していったかを調査した⁴⁾ので、その結果について報告していきたい。

II 教材開発にあたって

(1) 教材開発の基礎になった「生活ノート」

国語科の「雪のある暮らし」⁵⁾は、雪国の生活を紹介した内容で、「(前略)11月から4月まで、雪国の冬は長くきびしい。きびしさの中で、人々は、苦勞に負けない強い心を育てるのである。」とまとめている。そこで、発展学習として、雪国の生活をテーマにした物語を読むことにした。『雪の夜の物語——かまくら』と『雪と氷の国—氷原のエス

*豊橋市立大村小学校教諭

キモーたち⁷⁾』を印刷して、子どもたちに読ませた。

後者の物語の中で、次のような文章がみられた。「(前略)ちかくに小高くなった氷の山があります。イスマタは、そのなかからおのやのこぎりを取りだして氷を四角いれんがのようなかたちにきりはじめました。ムーンもそれを手つだいます。氷の家(イグルー)をつくろうというわけです。」

この文章をとらえて、S男は2月21日に、「生活ノート」に次の文を書いてきた。

先生。イグルーをこの教室の中にみんなで作りたいと思います。雪がふった時、小さなかまくらは作ったことがあるけど、氷でイグルーを作ったことはありません。氷で作るのは無理かもしれないので、発ほうスチロールをたくさん集めて作ってみたいです。

このS男の「生活ノート」を朝の会で発表させたところ、他の子どもたちも賛成し、翌日から発砲スチロール集めが行われた。

(2) エスキモーについての事前調査

12月22日に、エスキモーについて知っていることの事前調査を実施していた。

問題は、以下に示す8項目から成っている。

①あなたは、エスキモーにかんけいある本を読んだことがありますか。
 (ア) ある どんな本()
 (イ) ない

②あなたは、エスキモーにかんけいあるテレビを見たことがありますか。

(ア) ある どの番組 ()

③あなたは、エスキモーについて本やテレビ以外で、どんな所で知りましたか。

④エスキモーの人たちの服そうを絵でかきなさい (10才の子ども)。

⑤エスキモーの人たちの住んでいる家を絵でかきなさい。

⑥エスキモーの人たちは、どんなものを主に食べますか。ことばで書きなさい。

⑦エスキモーの子どもたちは、どんなことをして遊んでいると思いますか。ことばで書きなさい。

⑧エスキモーが生活している所を、赤でかきなさい。

結果については、表1 (問題番号①, ②, ③), 図1 (④), 図2 (⑤), 表2 (⑥, ⑦), 図3 (⑧) に示す。

表1は、子どもたちがエスキモーについて、どのようなものを媒介として情報を得たかを示すものである。この調査から特徴的なことは、子どもたち42名中32名の者がアイスクリームと答えていることである。子どもたちは日常口にするアイスクリームの商標から、エスキモーという言葉を想起している。



図1 「エスキモー」についての事前調査 (服そう)

表1 「エスキモー」についての調査 (エスキモーについての情報源)

問題番号	①本		②テレビ		③その他
	(ア) どの本	(イ)	(ア) どの番組	(イ)	
1		○		○	アイスクリーム
2		○	○	コマーシャル	//
3	○	さいごのおおかみ			○ //
5		○		○	_____
6		○		○	アイスクリーム
7		○	○	マンガ	//
8	○	南極物語			○ // (地図)
9		○		○	//
10		○		○	//
11		○		○	//
12		○		○	//
13	○	南極物語	○	木曜スペシャル	//
14		○	○	南極物語	//
15		○		○	//
16		○		○	//
17		○		○	//
18		○		○	//
19	○	こおりの家			○ //
20		○		○	_____
21		○		○	アイスクリーム
22		○		○	//
23		○	○	南極物語	//
①		○			_____
②	○	アイスクリームの国へ ごしょうたい			○ アイスクリーム
③		○			○ //
④		○			_____
⑤		○	○	コマーシャル	アイスクリーム
⑥		○		○	//
⑦		○	○	南極物語	_____
⑧		○		○	アイスクリーム
⑨	○	アイスクリームの国へ ごしょうたい	○	マンガ	//
⑩		○		○	//
⑪		○		○	//
⑫		○		○	//
⑬		○		○	_____
⑭		○		○	アイスクリーム
⑮		○		○	_____
⑯		○		○	(地図)
⑰		○	○	なるほどザワールド	_____
⑱	○	アイスクリームの国へ ごしょうたい			○ アイスクリーム
⑲		○			_____

註) ③の—は無答を示す。

番号1~23は男子, ①~⑱は女子を表す。

図1は、エスキモーの服そうを絵で表したものであるが、図中番号5の子どもは、アフリカ原住民のような服そうを表している。また、⑤の子どもは、インディアンの女の子が少し厚着をしているような服そうをかいている。11・13・15・⑱の子どもたちは、寒さを防ぐ防寒着を着ている様子を表している。

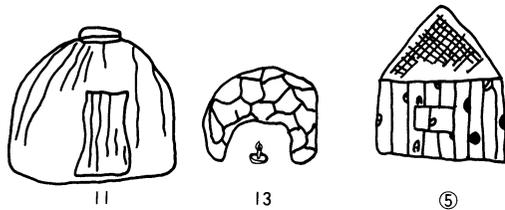


図2 「エスキモー」についての事前調査（住居）

表2 「エスキモー」についての事前調査（食べ物・遊び）

問題番号	⑥ 食べ物	⑦ 遊び
1	あざらし・パイナップル	がまん大会・雪がっせん
2	アイスクリーム	だんごで遊ぶ
3	魚	
4	ごはん・みそしる	氷で遊ぶ
5	かんづめ	雪がっせん
6	アイスクリーム	雪がっせん
7	トナカイの肉	ソリですべて遊ぶ
8		スキー・スケート
9	魚	スケート
10	クマの肉	雪がっせん
11	魚	雪がっせん
12	動物の肉	雪がっせん
13	魚・木の実	魚つり・スキー・スケート
14	とり肉	雪がっせん
15	オットセイ・アザラシ	氷をころがしている
16	動物の肉	雪がっせん
17	水	雪がっせん
18	エスキモーボンボン・ごはん	そり遊び
19	魚	魚つり
20	アイスクリーム	そり
21		魚つり、氷わり・スケート
22	かんづめ	
23	あざらしの肉・魚	そりとか犬、スケート
①	アイスクリーム	おにごっこ・そり
②		
③	アイスクリーム	スケート
④	肉や魚	スキー
⑤	魚	
⑥	アイスクリーム・氷・魚	スキー・スケート・雪がっせん
⑦	雪でおった魚	スケート
⑧	魚・アイスクリーム・おでん	スケート
⑨	あざらし・トナカイの肉	スケート
⑩	アイスクリーム	スキー
⑪	魚	アザラシがり
⑫	アイスクリーム	氷でいろいろな物を作る
⑬		どうぶつと
⑭	しぜんのもの	竹うま
⑮	魚	そり・雪がっせん
⑯	魚	スケート
⑰	魚	そり遊び
⑱	かんづめ	雪だるま・雪がっせん
⑲	かんづめ	スキー・スケート

図2は、エスキモーの住居を絵で表したものであるが、11はテント、13はかまくらに似たイグルーを表現しようとし、⑤は木の家をかいている。

表2は、エスキモーの食べ物と遊びについて、言葉で表現したものである。食べ物については、魚15名、かんづめ4名、あざらし4名、トナカイ2名、オットセイ1名と答え、中には、アイスクリーム9名という答もみられた。遊びについては、スケート12名、雪がっせん12名と、雪国での遊びを当てはめている。さらに、魚つり3名・アザラシがり1名の者は、遊びイコール食糧確保の立場から答えている。その他、がまん大会と答えた者もあり、厳しい寒さががまんをすることを遊びに直結させて考えたユニークな子どももみられた。

最後に、図3は、エスキモーが住む地域を画定させたものであるが、北極海の周辺を示した子どもが42名中32名もいた。図3を見る限り、エスキモーが住む地域については、かなりの子どもが認識していることがわかる。

III 「エスキモーの暮らし」の実践

(1) 小単元の指導目標と単元構成表

「エスキモーの暮らし」の実践は、社会科「いろいろな土地の暮らし」の発展学習として位置づけるだけでなく、国語科の「雪のある暮らし」の発展学習としても位置づけ、その関連の上で授業を展開した⁸⁾(図4参照)。

「エスキモーの暮らし」の指導目標は、次の2点である。

- ① エスキモーの人々が自然環境に適応しながら生活していることを理解させる。
- ② エスキモー固有の文化の尊重を通して、世界像を形成させる。

次に、子どもの自由な追求にそった小単元展開を小単元構成表として表3に示しておく。

(2) イグルーを作ろう

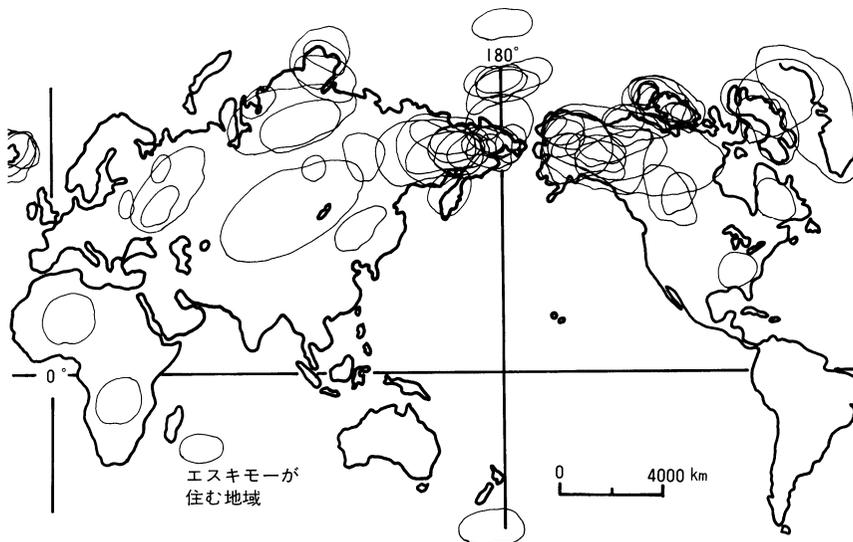


図3 「エスキモー」についての事前調査（エスキモーが住む地域）

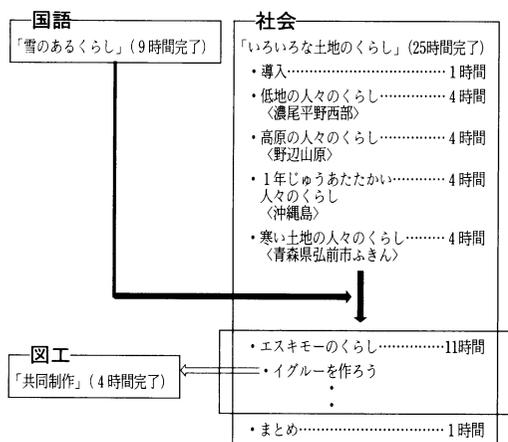


図4 「エスキモーのくらし」の教科関連図

表3 「エスキモーのくらし」小単元構成表 (11時間完了)

(1)	イグルーを作ろう……………4時間
(2)	住まい……………1時間
(3)	エスキモーの人たちの住んでいる地域(地球儀を使って)……………1時間
(4)	1日のくらしぶり……………1時間
(5)	食べ物……………1時間
(6)	衣服……………1時間
(7)	エスキモーの人たちの考え……………1時間
(8)	まとめ……………1時間

註) イグルーを作ろうは、図工科の中で位置づけた。

2月21日のS男の「生活ノート」が基になり、イグルー作りを3月6日に行った。学級を2つのグループに分け、人間が1人入ることができるイグルーを作ることにした。材料の発砲スチロールは、子どもたちがスーパーの魚屋などに出かけて集めてきた。教室中が発砲スチロールで埋り、さながらエスキモーが住む氷の世界のようであった。

イグルーを作っていく途中、子どもたちは作業がなかなかはかどらず、考えこんでしまった。そこで、「エスキモーの人たちは、20分でイグルーを作りあげる。」という資料を提示したところ、子どもたちの中から、「すごいなあ。」という声と同時に、「どうして、そんなに早く作るのだろう。」という疑問が出てきた。以下は、その際の子もどしでの会話である。

C	どうして、そんなに早く作るのだろう。
C	慣れてるからだよ。
C	きっと、はやく作らないとこごえ死んでしまうからだよ。
C	そんなに、寒さが厳しいのかな。
C	だったら、寒さの厳しい中で、どんな生活を

しているのかな。

C そんなに寒けりゃ、いったい何を着て、寒さを防いでいるのだろう。

C 食べ物、寒いからあったかい物を食べているよ、きっと。

この時に出てきた疑問を整理し、その疑問を解決していく授業展開を考え、先に示した表3のような小単元構成にしていった。



イグルーを作っているところ

教室中発砲スチロールの山となり、その中でドーム型のイグルーを作ろうとするが、曲線の出し方、積み上げ方など難問が続出した。

(3) エスキモーの人たちの住んでいる地域（地球儀を使って）

エスキモーの人たちの住んでいる地域を、先ずメルカトル図法上で予想させ、その予想と実際の分布を比較した所、子どもたちの中から、「エスキモーは、かなり広くひろがって住んでいるんだね。」という声が聞かれた。そこで、今度は地球儀を使用して、エスキモーの住んでいる地域を調べさせた所、「あれ、あんなに広くひろがって住んでいると思ったのに、地球儀で調べると、北極海中心に狭い範囲で住んでいることがわかる。」「地図と地球儀だと、どうしてこんなに違うのかな。」という意見が出た。メルカトル図法の地図作成方法とその特徴について簡単にふれ、授業を終わった。

(4) 食べ物

子どもたちのエスキモーに関する疑問は、衣・食・住と、1日のくらしぶりに及んだ。その中で、食べ物についての授業実践についてふれてみたい。

T エスキモーは、どんなものを主に食べているのだろうか。

C 昨日の、1日のくらしぶりで、父親があざらしがりに出かける所があったでしょ。あのあざらしの肉を食べると思います。

C うん、そうだよ。あざらしの肉をジュージュー焼いて焼肉で食べるんだよ。

C そうかなあ。ほく、この前テレビで、エスキモーの人たちがナイフで生の肉を切りながら食べているのを見たよ。

C えっ、ほんと。

C ほんとだった。

T それじゃあ、みんなの中で、生の肉を食べたことある。

C ほく、ないよ。

C 私も。

C あるよ。九州のおばあちゃんの家に行くと、馬の肉をさしみみたいにして食べるよ。

C 気持ち悪い。

C おいしかった。

C わかんない。味がなみたいだったよ。

T エスキモーの人、あざらしの肉を焼いて食べるのかな。それとも、生のまま食べるのかな。

C ほくは、焼いて食べると思うよ。だって寒い所に住んでいるから、あったかい物を食べたいに違いないよ。

C 私は、生のまま食べると思います。人間にとって、ビタミンは大切でしょ。よく私も、お母さんから野菜を食べなさいと言われるの。私たち日本人は、野菜や果物からビタミンを取っているでしょ。だけど、エスキモーの人たちは、寒い所に住んでいるから、野菜や果物はできないと思うの。この前、お母さんの料理の本で見

ただけで生肉のまま食べれば、生肉の中にビタミンをたくさんふくんでいるんだって。エスキモーの人たちは、野菜や果物を食べなくてもビタミンを取ることができるでしょ。だから、体のことを考えて、生のまま食べているのよ。

T そうだね。焼いて食べることもあるけど、主に生のまま食べるね。Mさんが言ったように、生のまま食べれば、ビタミンCをたくさんとることができるんだよ。

それでは、エスキモーの食べ物についての¹⁰⁾資料を配ります。

C あざらしの他に、ほっきょくぎつねとカリブーなども食べるんだね。

C それに、さげやくじらも。

C せいうちもあるね。

C うさぎも食べるんだね。

C あれっ。植物といったらこけ類だけだね。

(以下略)

(5) エスキモーの人たちの考え

授業を進めていく中で、子どもたちの中から、「どうして、こんなに寒さが厳しい所に住んでいるのだろうか。」という疑問が出てきた。そこで、この疑問に対して、いろいろな考えを出し合った。

T I君が生活ノートに、「エスキモーの人たちは、どうしてこんなに寒さが厳しい所に住んでいるのだろうか。」という疑問を出してくれたので、みんなで考えたいと思います。

C 昔から住みついているので、寒さに慣れているんじゃないのかな。

C ぼくは、食べ物のでやったんだけど、いっぱいアザラシがとれて、アザラシの肉に栄養があって、その皮で舟や服なども作れるし、またキバを売ったりしてお金ももうけるし、イグルーやテントも簡単にできて、逆に過しやすいんじゃないかな。

C エスキモーの人たちは、他の人たちと争うことを好まなかったの、自然の厳しい所へ、逃げるようにして移り住んだんじゃないかな。はじめは、今より、あったかい所に住んでいたと思うよ。

C 別に不自由なことはないと思う。エスキモーの人たちは、エスキモーの人たちなりにちゃんと自然をいかして生きているからいいと思う。
(以下略)

(6) エスキモーについての事後調査

「エスキモーの暮らし」の授業実践後、3月23日に、事前調査と同様な問題(④～⑧)を出して調査した。

図5は、エスキモーの服そを絵で表したものであるが、13のフード・てぶくろ・毛がわ・皮のくつ、⑩のカリブーの毛皮というように、かなり詳しくかかれてある。図1の事前調査と比べると、違いがよくわかる。

図6は、エスキモーの住居を絵で表したもので



図5 「エスキモー」についての事後調査(服そ)

あるが、夏はテント、冬はイグルーというようにかかれてあり、図2の事前調査と比べると、季節によって住む家が変わってくるなどの違いが明確に出ている。

表4は、エスキモーの食べ物と遊びについて、言葉で表現したものである。食べ物については、

授業で取り扱った、あざらし・カリブー・せいうち・魚・北極ぎつね・うさぎ・こけ類などを答えている。遊びについては、キャッチボールと書いた子どもが22名もいるが、これは、子どもに配布した資料に、エスキモーの子がキャッチボールをして遊んでいる写真¹²⁾があったため、自分と同じ

表4 「エスキモー」についての事後調査 (食べ物・遊び)

問題番号	⑥ 食べ物	⑦ 遊び
1	あざらしのなま肉	魚つり・かり
2	魚・くじら・カリブー・あざらし・北極ぎつね	カリブーとり・雪がっせん
3	魚・あざらし・くじら・うさぎ・北極ぎつね・カリブー・セイウチ	魚つり・キャッチボール
4	アザラシ・シャチ・魚・はだ色アザラシ・クジラ	野球・スキー・雪がっせん
5	くじら・魚・うさぎ・きつね	スケート・キャッチボール
6	アザラシ・くま・クジラ・うさぎ	キャッチボール・魚つり
7	あざらし・セイウチ・カリブーの生肉	大人にまじってかりをしたりする
8	セイウチ・カリブーなどの生肉	キャッチボール
9	せいうち・くじら・あざらし・こけるい・ほっきょくぎつね	キャッチボール・スケート・つり
10	アザラシの肉・せいうち・カリブー・こけるい・くじら・サケ・ほっきょくぎつね	キャッチボール
11	アザラシやせいうち	魚つり・アザラシ(セイウチ)がり
12	アザラシ・シャチ・北極グマ・北極ギツネ・トナカイ	つり
13	アザラシ・セイウチ・クジラ・カリブー・北極ぎつね・さけ	魚つり・キャッチボール
14	カリブー・アザラシ・こけ類・せいうち・うさぎ	家の中でトランプ・カルタ・魚つり
15	カリブー・こけるい・くじら・アザラシ・ほっきょくぎつね	キャッチボール
16	カリブー・あざらし・せいうち・くじら・北極ぎつね・くじら・さけ	キャッチボール
17	アザラシ・トナカイ・クジラ	イグルーを作って遊ぶ
18	トナカイ・セイウチ・あざらし・北極ぎつね、白クマ	かり
19	あざらし・せいうち・カリブー・北極ぎつね・うさぎ・くじら	キャッチボール
20	アザラシの肉	そり
21	あざらしやセイウチの生肉・魚	ドッチボール・アザラシがり
22	なま肉	キャッチボール
23	せいうち・あざらし・さけ・くじら・カリブー・うさぎ・北極ぎつね	スキー・スケート
①	うさぎ・あざらし・きつね・カリブー	キャッチボール
②	アザラシ・くじら・魚・となかい	サンリンシャ・スケート・ローラースケート
③	カリブー・あざらし・さけ・セイウチ・うさぎ・ほっきょくぎつね	キャッチボール・スケート
④	アザラシの生肉・くじらの肉	野球
⑤	くじら・セイウチ・あざらし・魚・となかい	三輪車・かり
⑥	くじら・くま・あざらし・こけ類・北極ぎつね・うさぎ・カリブー	キャッチボール
⑦	アザラシ・カリブー・セイウチ・クジラ・うさぎ	スキー・スケート・アザラシがり・キャッチボール
⑧	カリブー・セイウチ・あざらし・うさぎ・くじら・さけ・北極ぎつね	キャッチボール
⑨	あざらし・カリブー・くじら・うさぎ・さけ・せいうち・ほっきょくぎつね	キャッチボール・スケート・えものづかみ
⑩	アザラシやセイウチの生肉	スケート・スキー・キャッチボール
⑪	北極ぎつね・うさぎ・さけ・くじら・あざらし・カリブー	キャッチボール
⑫	アザラシの生肉	キャッチボール
⑬	カリブー・くじら・こけ・ほっきょくぎつね	あやとり
⑭	アザラシ・カリブー・ほっきょくぎつね・くじら	スキー・スケート・魚つり
⑮	アザラシとかの生肉・生肉をにたもの	そり・スケート
⑯	あざらし・カリブー・魚・くじら	キャッチボール
⑰	あざらしの生肉・かんぞう・魚	スケート・そり
⑱	あざらしのなま肉・トナカイのなま肉・くじら	そり・スケート
⑲	あざらし・カリブー・せいうち・くじら・さけ・うさぎ・ほっきょくぎつね	キャッチボール・犬ぞり・魚つり

註) 事前調査の表2と比較対照のこと。

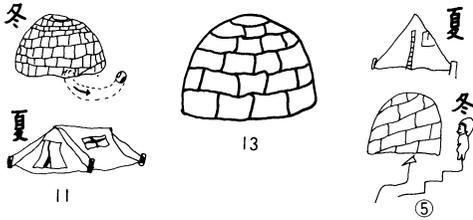


図6 「エスキモー」についての事後調査（住居）

きては、それを生のまま食べ、毛皮は自分たちの服にします。そして、自然の水を使って家をたてるのです。すべて自分たちの力で、自然から手に入れることができるのです。とてもすばらしいと思います。

(H男)

遊びをしているということで印象深かったからであらう。

図7は、エスキモーが住む地域を画定させたものであるが、すべての子どもが、北極海中心を答えた。これは、地球儀を使用して、北極海中心ということが、子どものイメージとして残ったためであると考えられる。

IV おわりに

子どもたちが、「エスキモーの暮らし」の実践後、「生活ノート」に次のように書いてきた。

氷点下30°C以下にもなるといふきびしい自然の中で、エスキモーの人たちは、自然とたたかいながら生きています。あざらしやカリブーをとって

エスキモーについて勉強していて、私はよくテレビに出るブッシュマンはどんな生活をしているのかなと思いました。これから、ブッシュマンについて、「エスキモーの暮らし」で勉強していったように自分で調べてみて、エスキモーと比べてみたいと思います。

(I女)

寒い土地といっても、青森県弘前市ふきんとエスキモーが住んでいる北極海の近くとは、だいぶちがいます。特に、エスキモーの人たちは、季節によってかりの方法をかえ、家も夏と冬と区別するなど、自然をうまく利用していると思います。

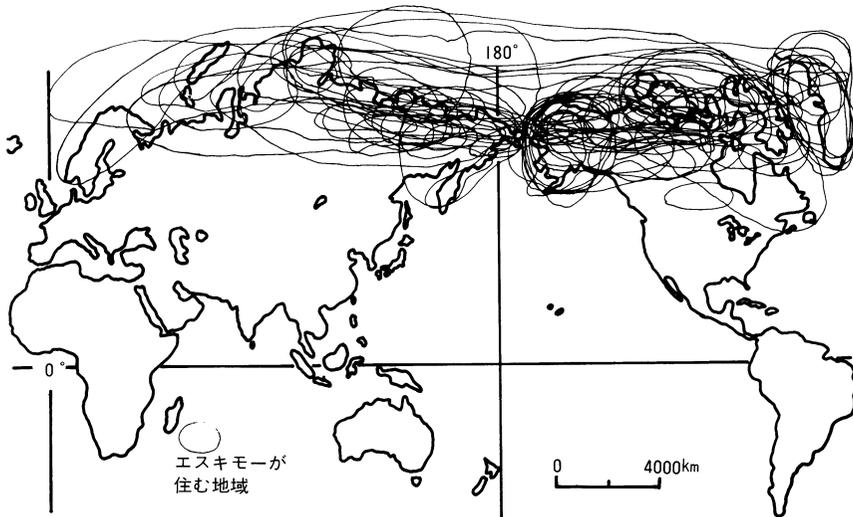


図7 「エスキモー」についての事後調査（エスキモーが住む地域）

弘前市ふきんは、冬、雪がたくさんふって農作業ができず、都会へ出かせぎに行くを書いてありました。エスキモーの人たちのように、もっと自然をいかして生活していく方法はないかなと思いました。

(A男)

先生が配ってくれたプリントの中で、エスキモーの人が、気象観測所やレーダー基地の建設のために労働者として働き、その時は、お金がどんどん入ってきて、そのしごとがなくなると、ぜいたくになれたエスキモーは、自然の中にもどることができずに酒ばかりのんでいると書いてありました。そして、エスキモーの人が、「おれたちは荒野ではちゃんとしてたんだ。みんなばかじゃないんだぞ。あんまりいっぺんにかわりすぎて、頭がメチャメチャになったんだ。」とさげんだと書いてありました。エスキモーの人たちは、自分を見失ってしまったんだと思います。エスキモーの人たちにとって必要なことは、一時的な金もうけではなく、自然の中で生きていくことのすばらしさを守り続けることだと思います。(K女)

以上、授業実践後、「生活ノート」に書かれた内容の一部を紹介した。

今後は、本実践を研究の足がかりにして、先づ体系的な小学校社会科における世界地誌学習のカリキュラム案¹³⁾を作成したい。次いで、各学年における世界地誌学習の教材開発を行い、授業実践を積み重ねながら検証していき、小学校における世界地誌学習の必要性、さらにはその有効性について主張していきたいと考えている。

引用文献および注

- 1) 昭和60年度日本地理教育学会研究発表要旨参照。
- 2) 岩本は、仮説を支持する主な意見として、次の6

項目を掲げ、文献整理を行った。

ア. いわゆる同心円的拡大に対する素朴な疑問

イ. 国際理解を深めるために必要

ウ. 外国の地理教育との比較から

エ. マスメディアの発達＝情報社会の現出のために必要

オ. 子どもの興味・関心から

カ. 他教科における取り扱い(とくに、国語と音楽)

3) 斎藤は、地誌教育は、子どもの発達に伴って段階的に発展するとした。

第1段階：子どもが直接、またはそれに近い状態で体験できる地域の認識(小学校低・中学年)

第2段階：自国などを中心とし、それとかかわりをもつ諸地域を通じて行う世界の認識(中・高学年)

第3段階：第三国間の諸関係を含めた世界の構造的認識(中等教育の全期間)

ところで、寺本潔は、1985年度日本地理学会春季学術大会において、「発生的視点からみた初等地理教育の改善点」と題する研究発表の中で、第4学年の学習の最後に当たる、「地形や気候の条件からみた国内の特色ある地域」の学習をもっとも多様化する必要があると主張し、国内の事例に必ずしもとどめておく必要はないと述べ、岩本・斎藤と同様な意見を提示した。

4) 筆者は、同様な方法で学力問題を取り上げた。拙稿(1984)：方位概念の獲得——小2「ものの位置」を通して——地理学報告第59号 pp. 9～17。

5) 林四郎他著(1983)：『改訂新しい国語四下』東京書籍 pp. 106～115。

6) 芳賀日出男著(1980)：『子どもの祭り』小峰書店 pp. 24～33。

7) 別技篤彦著(1970)：『世界の人びと——かわる世界のくらし』大日本図書 pp. 5～26。

8) 前掲4)。拙稿(1983)：「総合学習」の試み——小5「わたしたちの矢作川」の実践を通して——地理学報告第56号 pp. 38～46。拙稿(1983)：「総

- 合学習」の実践上の問題点—小6「二本木開拓史」を通して— 地理学報告第57号 pp. 30～41。
- 9) 米山俊直・野口武徳・山下諭一訳編 (1980)：『世界の民族と生活 4 北アメリカ』 ぎょうせい pp. 30～59。
- 10) 学習研究社編 (1980)：『小学ベスト教科事典 第三巻 社会二 日本の自然と産業』 学習研究社 pp. 34～35。
- 11) エスキモーに関する資料としては、次の文献なども参考にした。
- 下中弥三郎編 (1956)：『世界の子ども13 北アメリカ篇 カナダ・グリーンランド・アラスカ・アメリカ合衆国』 平凡社 207P。
- 東京教育大学初等社会科教育研究会編 (1976)：『少年少女社会科の教室 第4巻 世界の自然と生活』 小峰書店 206P。
- 野村正七著 (1976)：『新しい世界地理く6> 北アメリカの国々』 偕成社 226P。
- 12) 浅井得一著 (1977)：『世界ふしぎ探検4 北アメリカ』 小峰書店 pp. 17～27。
- 13) 寺本潔と共同で研究を行っている「小学校児童における外国地名の記憶効果に関する研究」(1985年度日本地理学会春季学術大会・昭和60年度日本地理教育学会・昭和60年度日本社会科教育学会において発表)は、このカリキュラム案を作成する上での基礎資料を提供するものである。